

夕刊 磐城新聞

行發日九十二月二

童話 井戸

千葉省 三

昔原の小学校は丘の上に出して、丑の汲んだバケツ...

高月句集 二月例會

春の雪 二月例會 (二) 雪の足もとに...

殘寒孤愁

古川 信一

正月の夜多量の雪を思ひ我がまじし原を...

學藝消息

島田忠夫氏(口輪)川上四郎氏、四六二頁...

社會の今日

伊東重次郎

忘れても覚えて居ても 良い顔が、思ひ出せない...

女長兵衛

東京 新渡南史 (魚崎湖遊)



女長兵衛 (魚崎湖遊)

學藝消息

三氏著「忍坊主」(千葉省兵衛大木の家の...

ラヂオ 仙臺 JOHK

市原病院

吉田眼科病院

平町紺屋町

花環の御用命は

橋本屋造花店

川井内科診療所

阿康藥舖

胃腸梅毒

白馬の雪營業所

春向新色入荷

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

白馬の雪營業所

月曜論壇

昭利産業博覽會

伊東氏の産業博覽會が、  
本年十五丁目地に開催さ  
れた當時に於て、全然他の  
種々の興行も位に冷眼視  
され、終始一貫不撓不屈の  
精神を以て之を遂行せねば  
ならなかつたに反し、今回  
は總裁以下を關係官邊に仰  
ぎ町理事者及町議多數の支  
援を受ける事になつたのは  
殆ど孤立無援なりし前回の  
較べ伊東氏の心強さもさる  
事乍ら、夙に思ひを此所に  
効し釋然として之が應援に  
答かならざる態度に出た  
町當局の襟度を多とするも  
のである、吾人は平町の三  
春を飾る催しとして昭利産  
業博のより成功せん事を衷  
心祈念すると同時に町の有  
識者たるものは此際最大限  
の好意を以て之を支援さ  
れん事を希望して措かぬ。

滿洲の敵の猛射を浴びつつ  
寡兵克く大軍を撃退す  
ハルピン入城前の血祭り戦

湯本町出身 歩兵 比佐國永君

一月下旬ハルピン方面にして其光景筆紙の克くする  
の危機迫り長春部内は約七處に無之候、午前八時頃敵  
十里に亘る長春、吉林、敦化は損害多大遂次退却の兆あ  
らざるに反し、我軍の射撃益々猛烈とな  
に分離警備中の處二十八日  
急遽長春に 集結を  
命ぜられ同時に東支南線に  
依り北行を命ぜられしも當  
町附近の敵十名は今尙其儘  
時東支線の輸轉材料は北行  
不足あり幸して四臺の  
機關車を得て旅順司令部及  
機動隊を率て旅順司令部及  
機動隊は長春市民の歡送裡に  
夜半二回互に北行途中屢なる東北砲聲に對しては開  
條及橋梁破壊を修理しつつ殆ど全滅二ヶ團は算を亂し  
北行し幾多障礙を除去し三退却致し殆ど離れ集結中  
十日双城堡驛着、前團指令せざるの現況に有之候、此  
により當地附近に於て師團の變に應ずる爲に團主力は  
れ間地下車致す事に決し中し三月より各隊行動を起  
一部を警備隊内の配置撤離しハルピンに近接戰團裡に  
荷物を夜間卸すに努め主力日夜を過し五日拂曉彼我砲  
は列車に宿泊致し翌三十日強敵を極め午前十時頃全  
一日午前五時十分頃突如我線攻撃  
が〇〇中隊方面に銃聲起り  
射撃は前左右方面、熾烈を  
極め其兵力約三千、支那軍  
に似合はぬ勇敢な隊と共  
に突撃し來る時我隊は沈  
着に對し僅少の人員を以

集中掩護を 命ぜら  
れ間地下車致す事に決し  
一部を警備隊内の配置撤離  
荷物を夜間卸すに努め主力  
は列車に宿泊致し翌三十日  
一日午前五時十分頃突如我  
が〇〇中隊方面に銃聲起り  
射撃は前左右方面、熾烈を  
極め其兵力約三千、支那軍  
に似合はぬ勇敢な隊と共  
に突撃し來る時我隊は沈  
着に對し僅少の人員を以

克く之を撃 破す、  
當時野砲兵第〇聯隊の〇中  
隊を配屬しあり機宜に適し  
隨隊隨所に射撃を加へ敵迫  
撃砲の射撃又猛烈にして彼  
我小銃砲聲距離に幾々と會  
石城郡第三方面の女子青年  
總集會は今日二十九日午前  
時から本館に開催したが出  
席者六百餘名左記宣言員  
隨隊隨所に射撃を加へ敵迫  
撃砲の射撃又猛烈にして彼  
我小銃砲聲距離に幾々と會  
石城郡第三方面の女子青年  
總集會は今日二十九日午前  
時から本館に開催したが出  
席者六百餘名左記宣言員



痴情地各

市東山山科町宇安安井市  
市東山山科町宇安安井市  
市東山山科町宇安安井市  
市東山山科町宇安安井市

受驗準備是非  
中等學校へ進まんとする  
年少子女の受驗準備は期日  
の漸く切迫する共に加速  
度的に一層の血みどろさ  
増して行くは、其り子女を  
有するも有せざるも均しく  
涙無くしては見られぬ光景  
である。而も來るべき大試  
練の前に必ずしも甘受せね  
ばならぬ忍苦とせば此際何  
等の議論は無いが中には往  
々その必要無き優良児が之  
に加はるや殆ど之等子弟  
間の年中行事として半ば惰  
勢的に行はれつつあるやの  
觀がある、お互研究を要す  
る處であらうと思ふ。

らしめん事を期す  
團員演説  
所感(平)樋口美代、隨感  
(平)門崎きみ、禁酒と婦  
人(平)折之内ヨシ子  
我が國の折之内(好)豊田  
キクエ、所感(平)石井サ  
ダ子、國家事變と婦人の  
覺悟(白石)丈夫氏  
平在軍の講演會 平で  
在軍人分會では二十九日  
午後六時から四丁目マル  
トモホールに於て  
尼港事變避難者中只一人  
の生存者山本象三郎、前  
關東軍附陸軍歩兵中尉熊  
倉政明  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

町歳計卅一萬圓  
水道關係で大減額  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六  
△歳入 財産より生ずる收  
入三、〇四九、〇二八  
△歳出 雑費一、〇二八、  
七九〇、〇八八、交付  
金四、九七二、〇三六

江名町から  
其筋へ五十圓  
國防基金  
江名町漁業組合並に船頭會  
では國防基金として五十圓  
上小川應募海兵、上小川  
を此程陸軍省へ提出した

大平町の念願は  
依然有望に展開  
愈々近く其筋へ鋪裝陳情  
大平町の鋪裝道路は屢報の如でも七年度へ工事進行方  
向を設計した縣原技師内務は縣當局との間に相當了解  
を得て、一方土木監督所でも之に内務省の認可可なりな  
近  
要する一切の材料を蒐集中(内務省へ右の陳情運動を  
て該工事に就ては前記兩市起す事となつた

高久病院 産科。婦人科。院長 木村寅次郎 電話一六四番